

自由とは

自分の意志で選び、自分の思うまま行なえることは楽しいものです。その反対に、他人に支配され、束縛されることは苦しいことです。いくら立派な老人ホームであっても、職員の世話になり、自身の生活が管理されることは辛いものです。貧乏をしていますが、自由に暮らしたいという願いは誰にでもあります。最近の日本では、子供の世話になって窮屈な思いをするよりも、一人で気楽に暮らすほうが良いという考えが増えて、各地に独居高齢者ホームが多くなりました。

子供の自由奔放な行ないは親が責任をとらなければなりません、自分の責任で行なえば自由です。しかし、他人の迷惑も考えず、法律に触れなければ何をしても自由というのは、世の中をたぶらかす考え方です。それは自由ではなく、傲慢ではないでしょうか。

欲の赴くまま行なえば苦しみの原因を作ります。それゆえに、欲望がコントロールできる能力を養う必要があります。波に漂う木の葉は自由のようにみえますが、実際は波にもたせばされているのです。主体性がある、我欲のない嬉々とした活動こそが真の自由といえましょう。

観音さまには十自在力があります。寿、心、財、業、生、勝解、願、神力、智、法がそれです。つまり、寿命や心、財産、過去の悪い因縁を断ち切り、生き方が自由であり、さらに勝れた理解力があり、それによって願いをかなえ、特殊な技能と智恵に優れ、正しい教えを説く人を「観自在菩薩」といいます。

手足は縛られても、心までは縛ることができません。宗教が求める自由とは、心の解放です。悪い星の下に生まれても、それに縛られず、また執われないことです。心をオープンにして、風のように自然に従えば、大自在力が得られます。

宗教のなかで、もっとも合理的で、道徳的で、人間の在り方を説くのは仏教です。仏教は教条的ではありません。信仰の強要も、他の神仏への拒絶もありません。きわめて自覚的な宗教です。仏教徒は自由意志で信仰を培っています。自由には厳しい義務と良心が伴いますが、自由は自ら努力して授かる宝物です。相互に人格を認め、相手を深く干渉せぬように、互いの自由を許しあいたいものです。